

第 4 回佐倉市地域福祉計画推進委員会 議事録

開催日時	令和 7 年 8 月 1 9 日（火） 午後 1 時 3 0 分～ 3 時 1 5 分
開催場所	社会福祉センター地下研修室
出席者	宇田川 光三委員、川根 紀夫委員、黒田 聡委員、 小林 眞智子委員、近藤 美貴委員、住吉 アキ子委員、 深沢 孝志委員、森本 直樹委員
欠席者	なし
事務局	島村 美恵子（福祉部長）、中村 圭司（社会福祉課長）、 大久保 英一（社会福祉課主幹）、下地 正史（社会福祉課管理班長）、 青木 智徳（社会福祉課地域福祉班長）、 栗原 康彰（社会福祉課主査）、橋口 庄二（社会福祉課主査補）、 村元 京平（社会福祉課主査補）、関 光一朗（社会福祉課主任主事）、 齋藤 潤（社会福祉課主事）
関係者	岡本 祥子氏（社会福祉法人佐倉市社会福祉協議会）
議 題	1. 議事 （1）第 5 次佐倉市地域福祉計画進捗管理シート一覧について 2. その他 （1）令和 6 年度生活困窮者等のための地域づくり事業評価シート（報告） （事務局都合により、当日の進行では先に「その他」、次に「議事」の順とした。）
配布資料	資料 1 第 5 次佐倉市地域福祉計画進捗管理シート一覧（推進委員会・意見記入用） （以下、当日配布） 資料 2 令和 7 年度生活困窮者支援等のための地域づくり事業について 資料 3 基本目標別指標の進捗状況評価（所管課自己点検・評価）一覧
傍聴人	2 名

1. 開会

今回の議事録確認者は、小林会長と住吉委員の 2 名であることが確認された。

事務局出席者の都合により、「議事」と「その他」の進行順を入れ替える旨、事務局から委員に伝達した。

2. （進行順入れ替え）その他

(1) 令和6年度生活困窮者等のための地域づくり事業評価シート（報告）

資料2に基づき、事務局から説明を行った。

○意見、質疑等

【会長】

- ・ 事務局の説明に対し、ご質問、ご意見等あるか。

【委員】

- ・ 資料2の3頁目、地域づくり事業の「意見・課題」に「事業実施内容が国の要領と乖離している」「事業実施内容の見直しが必要」とあるのは、私が出した意見。
- ・ 国の要領には5つの事業内容が挙げられており、令和6年度はそのうち「（1）地域住民のニーズ・生活課題の把握」「（2）地域住民の活動支援・情報発信等」を行ったとのこと。これらは、資料の「活動例」にも記されているように、「地域住民に対するニーズ・課題把握のためのアンケート調査」「地域住民に対して地域活動への参加を促す説明会の実施」などの方法によるべきもの。しかし、事務局によると、こうした活動は今後行うとのこと、これまでに実施したのは、アウトリーチ支援員が郵便局や自治会を訪問して、困窮者支援のための情報提供への協力依頼を行ったというもの。困窮者を支援しなければならない貴重な人材を、全然関係ないことに動員していることになり、見直すべきである。

【事務局】

- ・ ご意見は今後の事業運営に活かしてまいりたい。

【委員】

- ・ もう一つ、資料2の最終頁に「地域づくり」の実績数として435件と記されているが、郵便局や自治会への訪問は実績数から除外すべきであり、訪問支援、個別の支援にこそ努めるべきだ。他の委員はこれを高く評価されているようだが、いかがなものか。

【会長】

- ・ これについて、お考えやご意見のある方は。

【委員】

- ・ 厚労省としては、全国一般的に標準となるような活動例をガイドラインとして示しているものと思われる。しかし、活動の内容は、課題や自治会の力量といった地域事情に左右されるものであり、これを佐倉市ではどうしていくかという視点は重要だと考える。その意味で、活動例からの取捨選択はあってもよ

いと思う。

- ・ 地域全体の支え合いを築くための、具体的な5つの活動例。これをもとに取組を行い、それに対して評価がなされる。この流れの中で、どこが問題になるか、どこが優れていたかといったことを、どうまとめていくべきなのか、率直なところ、自分はまだ思いつかない。ただ、厚労省が盛んにアウトリーチと言いつつ始めたというのは、困りごとを抱えていながらも、どこへ行けば良いのか、自分の困りごとは何なのかがわからず、自ら行動に移せないような人が増えており、支援する側が出かけていかないと解決できない状況が、顕著になっているということ。アウトリーチを必要とする人が増えてつつあるということが、アウトリーチの課題なのだろう。その中で、地域の支え合いが必要になっている。このように整理した上で、どのように評価していけるか。

【委員】

- ・ まず地域づくりがなされ、支援対象者を発見し、そこにアウトリーチをかけるという想定だと思うが、今回は、先にアウトリーチをしてしまっている。支援員が、支援対象者のところに行くべきところ、郵便局や町内会、商店などに行かせてしまっている。これはおかしい。まず地域づくりとして、説明会やアンケートの実施をすべきだ。

【委員】

- ・ 私は、そのアウトリーチも地域づくりを進める上での財産になっていくものだと考える。支援する側が待っていても解決につながらないような人が増えてきているのだから、集まってくる情報を踏まえ、情報を寄せてくれた人たちと協働していくということが、地域づくりの糧になっていくのではないか。

【委員】

- ・ 実績件数としての「地域づくり」が、活動の実態としてアウトリーチと一緒にになっているのであれば、実績を出す際の「地域づくり」という表現を変えればよい。今は適切な語句が思いつかないが。活動実績として計上すること自体は問題ないと思う。

【委員】

- ・ アウトリーチは「地域づくり」を行った後で行われるべきだとの委員のご意見があった。私は普段から地域づくりに関わっているが、その中でも、アウトリーチを行うべき対象者がなかなか見つからないという現実がある。しかし、地域福祉コーディネーターであるアウトリーチ支援員が、地区社協の会議への参加や、郵便局等への周知活動などを行うことで、福祉委員の自覚にもつながり、支援を必要とする人につながる声も上がってくると思う。そういった意味での「地域づくり」は、確かに行われている。いきなりアウトリーチがなされ

ているということではない。

【会長】

- ・ 支援員は、民生委員の定例会にも必ず参加し、活動の説明をしてくれている。自治会やこども食堂への周知活動も行われ、そこからつながった家庭もある。実際に支援員として活動された立場からは、いかがか。

【関係者】

- ・ 昨年度は、周知を主眼として地域を回った。今年度、その成果を実感している。ちらしを見たり、会議で聞いたりということで、困窮者に関する多くの情報が寄せられた。今年は民生委員の一斉改選があるが、次の人に引き継ぐにあたり、担当地域のひきこもり等の問題を、早期の解決に導けるようにと相談にきてくださる。隣近所の困りごとを相談しても良いのだ、と知っていただけた。やはり、昨年度の周知活動からつながってきている。

【委員】

- ・ そうした状況は理解するが、アウトリーチ支援員と地域福祉コーディネーターの仕事は、本来、別であると考える。地域の住民同士のつながりを太くし、何かあった時にはつなげてもらうといった地盤づくりは、地域福祉コーディネーターの仕事。しかし、今次の地域福祉計画では、これと重点施策のアウトリーチ支援とが一体となってしまうっており、体制としておかしいと思う。アウトリーチ支援員なら、困窮者を支援するが本来の仕事であって、そこに特化しない取り組み方は間違いであると認識している。

【委員】

- ・ 令和3年度の地域福祉フォーラムにご登壇いただいた調布市社会福祉協議会の地域福祉コーディネーターのお話から、私も地域福祉コーディネーターには地域づくりのイメージを持つと同時に、自治会や民生委員との住み分けなど、混沌とした状況とも感じた。本委員会の委員として今次計画の素案を見た時に、私も地域福祉コーディネーターを「（仮称）生活困窮者自立支援相談員」（アウトリーチ支援員）として配置するという部分に疑問を持ったが、この計画では地域福祉コーディネーターすなわちアウトリーチとして位置付けているというところで、頭の整理をつけたところ。そのように捉えないと、平行線のままになってしまう。

【委員】

- ・ 計画書には、アウトリーチ型支援について、自ら支援を求められない困窮者に対し積極的に働きかける支援との趣旨の説明がなされている。一方、地域福祉コーディネーターについては、地域福祉活動の推進を図る、地域のつなぎ役

とされている。この使い分けを明確にしてほしい。。

【会長】

- ・ 計画書の説明は、アウトリーチ「支援員」ではなく、あくまでもアウトリーチ型「支援」に係るもの。現在、佐倉市社会福祉協議会としての地域福祉コーディネーターは2名いるが、そのほかにもアウトリーチ支援員は複数配置されており、連携して活動ができているので、問題はないと思う。

3.（進行順入れ替え）議事

（1）第5次佐倉市地域福祉計画進捗管理シート一覧について

資料1及び資料3に基づき、事務局から説明を行った。

○意見、質疑等

【会長】

- ・ ただ今の説明に対し、ご質問、ご意見等あるか。

【委員】

- ・ 委員がこのシートで意見を出したら、それに対するフィードバックはあるのか。指標によっては、数値目標でなく実施したか否かだけの目標設定のものもあるが、実際にはその背景に、例えば「相談支援機関との情報共有等連携」など、数多くの機関の中で、どの機関とどのような連携がなされたのか、ということがある。委員がそうした部分に踏み込んだ評価を記載したら、それに対する回答は得られるのか。

【事務局】

- ・ いただいたご意見をそのままにしては意味がないので、ご意見を踏まえてどのように進めていくのか、事務局から所管課に確認し、お知らせすることを考えている。シートから読み取れない疑問点については、都度、お問い合わせいただきたい。

【委員】

- ・ 年度計画なので、次年度以降へと改善を目指す視点はあるだろう。

【委員】

- ・ シートに記載されている以上の情報を得たい場合は、事務局を通して照会した上で評価するという理解でよいのか。

【事務局】

- ・ そのようにお願いします。

【委員】

- ・ 全てについて照会すると大変だと思うので、ここを見れば分かるというものを教えてくれれば、それでも良いと思う。
- ・ 計画に記載の施策「寄附・募金活動の推進」では、募金を生活困窮世帯の支援金に活用すると説明されている。そうであれば、評価の指標は募金活動に参加した人数でなく、募金の額とするべきだったのかもしれない。このように、施策と目標が合っているかというところも見ていくことが必要だと感じた。

【事務局】

- ・ 「寄附・募金活動の推進」に限れば、地域の活動の活性化の度合いという意味で、参加人数を指標にしたものをご理解いただきたい。

【委員】

- ・ シートに記載されている「次年度以降の課題及び改善点」は、所管課の記載がそのまま転記されているものか、それとも事務局の編集で簡略化されているものか。

【事務局】

- ・ 基本的に、所管課の記載をそのまま転記している。

【委員】

- ・ 委員はシートにAからDの評価も記入するのか、それとも意見を記入すればよいのか。

【事務局】

- ・ AからDは所管課の自己評価。委員には意見の記入をお願いするもの。

【委員】

- ・ 福祉計画の評価というものは、非常に難しい。実績値をこの場合のベンチマーク（基準）と捉えると、初期値としてなぜ令和5年度でなく令和4年度実績を記載しているのか。

【委員】

- ・ 令和5年度に策定した計画なので、直近の実績値が令和4年度実績であったもの。各所管課に照会すれば、令和5年度実績も分かるのではないかと思う。

【委員】

- ・ 実施したか否かだけの指標は、評価のしようがない。具体的な状況を補足してほしい。

【事務局】

- ・ シートの記載内容から評価していただくものではあるが、より詳細な情報が必要な場合は、事務局を通して照会されたい。

【委員】

- ・ 社会福祉課が所管するシートは、事務局の所属だけに詳細に記載されているが、所属により濃淡がある。今回は初の評価なので、仕方のないところもあるうか。必要に応じ照会することで、補足できると思う。

【委員】

- ・ 所管課にもそれぞれ計画があり、それぞれの委員が評価していく仕組みがあることを考えると、こちらで意見を記入しても、それは無理という回答がされることも覚悟しなければならない。
- ・ シートから読み取れない点は照会できるとのことだが、例えば実績として動画配信を挙げているような場合、そのアドレスも記載するなど、委員が自分で探せるような配慮もお願いしたい。

【委員】

- ・ 所管課ごとに自己評価が行われているため、評価のしかたにばらつきがある。同じように目標を上回る実績であっても、一方の評価はA、他方はBといった具合。このあたりも、評価の理由を確認したければ、事務局を通して照会ということか。

【事務局】

- ・ そのようにお願いします。

【委員】

- ・ 計画自体のことだが、生活困窮者自立支援事業でのアウトリーチ支援員の取組は昨年度から始まり、現契約は来年度でまで一区切りとなる。現状、財政上の理由から、予算は2人分とのこと。そうした理由であれば、今後、計画に記されているように配置を充実化していくというのは難しいのではないか。だとすれば、それに合った施策に変えていくべきではないか。

【委員】

- ・ 現実としてはそのとおりの状況だと思う。しかし、福祉の基盤計画としては、地域福祉の後退につながることをないようにあくまでも、高みを目指していつてほしい。

【委員】

- ・ これは市社協の地域福祉コーディネーターの問題としてだけではなく、既に市全体の課題なのだから、この委員会でも考えたほうが良い。

【会長】

- ・ 他にも評価に際して気になることがあれば、委員の皆さんは事務局に照会されたい。提示されたシートに対し、我々も真剣に意見を出していきたいと思う。それでは、事務局にお返しする。

4. 閉 会